



愛のともしびの
シンボルマークです

愛のともしび

発行

岡山県重症心身障害児(者)を守る会

岡山市北区祇園866 旭川児童院内

☎(086)275-3211

FAX(086)275-5102

岡山県 守る会

検索



ごあいさつ

岡山県重症心身障害児(者)を守る会 会長 濱口 喜直



一陽来復の春を清々しくお迎えのこととお慶び申し上げます。新年あけましておめでとございます。

旧年中は多くの方々のご支援とご理解を頂き、私たち岡山県重症心身障害児(者)を守る会の運動を継続させていただくことができました。改めて感謝申し上げます。この度、会長を拝命致しました濱口と申します。年齢を重ねましたが若輩者です。何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしく願いたします。

さて、コロナ発生より5年が経過し生活は以前の日常に戻りつつあります。しかしながら、失われたものもたくさんあるように感じています。私事ですが施設を利用

している娘の毎週末帰省ができなくなって数年が過ぎました。その間、娘の状態も変化し、私たち親も年を取りました。私たちは親の子どもに対する医療的なケアのスキルは低下しています。在宅で過ごされている方々におかれましても福祉サービス等の有効利用に支障が出て孤立感を深めたのではないのでしょうか。その間、重症心身障害児(者)を守る会の運動も停滞しました。

の励ましの言葉を頂きました。とても元気で前向きな方でこの人ならと感じました。会長から、多くの会員が日頃思っていること、感じていること、活動していること、悩んでいることを積極的に守る会の本部に伝えてほしいという言葉がありました。全国重症心身障害児(者)を守る会の会長として国の多くの政策委員会や検討会等へも招聘されており、力強く私たちの思いを伝えてくれます。皆さん、多くの感じることや思いを発信して参りましょう。

そのような中、北浦雅子氏のご逝去され運動の中心を失ったように感じたのは皆さんも同様ではなかったでしょうか。また、多くの先人たちが築き上げてきた重症児運動はどうなるのか…と不安や恐れを抱いたのではないのでしょうか。

最後に、障害者虐待防止法等が施行され障害福祉施設や教育機関等で虐待や不適切な支援が顕在化・報道されるようになりました。多くが障害のある方や社会的弱者に対する意識や配慮、想像力不足に原因があると私は感じています。今まで以上に、理念の理解を深め、社会の賛同を得る活動を継続し、すべての人が安心して生活できる時代となりますようお願いいたします。

守る会の三原則

- 一、決して争ってはいけない
- 一、争いの中に弱いものの生きる場はない
- 一、親個人がいかなる主義主張があっても重症児運動に参加する者は党派を超えること
- 一、最も弱いものをひとりもれなく守る

新年のご挨拶

国立病院機構

南岡山医療センター 院長

井上 美智子



皆様、謹んで新年のお慶びを申し上げます。また、日頃より当院へのご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

私は、平成19年（2007年）9月に当院に着任し、主に重症心身障害（重い知的障害と肢体不自由を合併する）を持つ方の診療を行ってきましたが、令和7年4月に院長を拝命し、気分を一新して新しい年を迎えております。着任から今に至る約18年間は慢性疾患や障害をもつ方の在宅医療が急速に拡大した時期でした。具体的には、訪問診療や訪問看護などの医療分野、介護を行う福祉分野、教育分野などからの支援の進展により、慢性疾患や障害をお持ち

の方々の地域生活の充実が図られてきました。そしてコロナ禍を経た今、社会ニーズの変化に対応して医療機関の機能分化が進んできています。すなわち急性期に高度医療を提供する急性期病院と、急性期を脱したのち地域生活への移行の準備を行う病院、在宅生活を支える在宅医療、日常生活の中で医療が必要な方が入院（入所）する病院などに分かれてきております。このような状況の中、当院では国立病院機構の中のセーフティネット系病院として、重症心身障害や神経難病などの疾患をもつ方々に医療を提供しながら入院（入所）生活や地域での生活する機能を維持、発展させていく事が求められていると感じています。これにより、疾患や障害をお持ちの方々が穏やかな日々を過ごしていただけるように、職員とともに鋭意取り組み所存です。

院長就任後は立場上、院外の様々な分野（医療・福祉・教育・行政など）の方々とお話をする機会が増えました。その中で介

護事業を行う会社の理念の中にあつた『生き延びる』というフレーズに心を動かされました。疾患も持ちながら地域で生活する方々の生き延びることを肯定し、生きる意志を尊重する言葉のようです。私自身はこのフレーズから、困難な状況の多い日々の中で生きることが大変な忍耐と努力が必要であり、生き抜くことは大いに称えられるべきものであるというメッセージを思い浮かべました。とりわけ重い障害をもちながら生きる重症心身障害児・者は、多くの苦難を経験し乗り越えて『生き延びてきた』勇者です。またその家族や支援者も苦難に翻弄されながらも彼らの命を支えて来られました。そして、重症児・者の命を守るために家族や支援者が手をつなぎ、それぞれの役割のバトンを渡していく様子は、まさしく『生き延びる』を体現する姿と感じます。支える人もいつしか支えられる人になり、命をつないでもらう番が来ます。そのような循環の中に身を置き、この時代を皆様とともに、勇気を出して明日に向かって進みたいと思います。

令和8年は、60年に一度の丙午ひのえうまの年です。その干支にあやかり、燃え盛るエネルギーをもち、変革・発展の年としたいと思います。

今後ともご支援、ご協力の程よろしくお願いいたします。

楽しくみんなで考える

防災デイキャンプ

岡山県守る会主催の『防災デイキャンプ』を8月17日に開催しました。暑い中、障害児者と家族12組（30名）、相談支援や訪問看護、事業所など支援者の方、県や市など行政の方、お手伝いとして旭川荘の職員、学生ボランティア、守る会の役員を含めて総勢90名、会場の旭川児童院多目的ホールは満員でした。

午前中は「旭川荘療育・医療センターにおける災害発生時の対応について」副院長の西谷友宏先生のご講演と食料などの備蓄庫や自家発電装置など、施設内の見学をしました。

施設見学に参加しない子どもたちは、旭川荘の職員さんと一緒に楽しい工作の時間を過ごし、とても素敵な風鈴が完成していました。

お昼は、岡山市から提供の防災食のアルファ化米、温めなくても美味しいカレーなどを試食しました。食形態に配慮が必要な子どもたちは、一人ひとりに合わせた形態（ペースト、刻みなど）のレトルトを試食しました。

スクリーンには岡山県守る会の歴史や行事の 슬라이ドと、家庭での備蓄・ローリングストックについての説明の 슬라이ドを流しました。

午後は、岡山大学の鷲尾洋介先生、平山隆浩先生、N E S 株式会社の西謙一先生のパネリストによる「自宅避難をみんなで考える」というテーマでのパネルディスカッションでした。前半は、岡山市のガブテックチャレンジの取り組みや福祉避難所について、医療的ケア手順集の紹介、後半は自宅避難の事例や非常時の電力確保について



で、蓄電池や発電機のお話を伺い、皆さんで意見交換をしました。

最後は、あきまバンドさんによるバンド演奏で、一緒に口ずさんだり、身体を揺らしたり、皆さんノリノリで素敵な演奏を楽しみました、イントロクイズでも盛り上がりました！

展示コーナーでは、ポータブル電源・発電機（ガス）・電源不要の吸引器・抱っこひも・医療的ケア手順集・防災食・災害時の車椅子に関する資料等、災害時に役立つ情報を見



展示し、皆さん興味深く見てもらいました。

ておられました。

岡山県守る会初の試みで、朝から長時間のスケジュールでしたが、皆さまのご協力のおかげで無事に実施することができました。

近年頻発し心配されている大規模自然災害に備え、重症児者や医療的ケア児者の命を守りみんなが助かるためにみんなで考えることが、岡山県守る会の活動の理解にもつながり、また、参加された方の防災意識が高まり、災害に備える準備の一助となることを願って企画しました。多くの参加して下さった方々のつながりも出来、次につながる一歩となったことがありがたく感謝です。ありがとうございました。

参加者の声から…

- *旭川荘の防災対策がとてもよくわかり参考になった。
- *自家発電装置はなかなか見ることができない貴重な体験で、装置の周りの防音壁やCO2の排気装置を見て、命を守るのは想像以上に大変だと思った。
- *災害への備えは、何を準備すればよいのか迷ってばかりで一歩が踏み出せないでいる。
- *二週間分多めの薬と栄養剤は保管している。
- *障害者本人のものは準備しているが、家族のものももう少し備蓄した方がよいと思った。
- *行政や医療、福祉関係者が当事者に予想される困難に対して考えられていることを知り感動した。この取り組みが有事の際に活かせることを望みたい。
- *医療的ケア児の手順集の作成など、重症児のため日夜奮闘されている先生に頭が下がる。
- *ポータブル電源はあって困らないと痛感した。
- *直流、交流の違いや療養住環境（何時間後に電気がなくなる）の話に興味があった。
- *在宅では自分たちで考えて行動するしかないと思っていたが、アドバイスや支援をしてくださる方がいることを知り心強く思った。
- *個別避難計画についてさらに詳しいものを作成されようとしていることや、地域のニーズ、避難所の状況を地図に落とし込む取り組みはさらに進めてほしいと思った。
- *素敵なバンド演奏に子どもたちがとても喜び、大人も楽しく心が和み元気をもらえた。
- *今回の企画は様々な切り口で構成されており、とても素晴らしい機会で多くの気づきがあり、自分のことも含めて考えさせられた。
- *つながりの大切さ、自分ができることは何か考えていきたい。
- *災害の備えは自助、互助、公助が重なりあって、みんなが助かる方法を考えていかなければならないと改めて思った。

第62回重症心身障害児(者)を守る全国大会

全国大会に参加して

南岡山医療センター 濱口喜直

昨年の9月21日～22日に北海道の札幌パークホテルで開催された重症心身障害児(者)を守る全国大会に参加した。札幌に向かうと大通公園では「さっぽろ大通ほっかいどう市場」が開催されており、多くの海外の方々に圧倒されながらも、早速サッポロビールと北海道の海産物を楽しみました。この幸せは、長年、重症心身障害児(者)を守る会が、重い障害を持つ私たちの家族の人権を守るために運動してきた歴史があるからだと改めて感じました。親だけ楽しんで娘に申し訳ないと思いつつも、私たちに今できることは何かと考える機会でもありました。

今、私が感じる一番の心配事は親の高齢化で家族会員が減少する中、家族会としての施設チエツク機能が低下し、本人が安心して心地よく生活を続けることができるのだろうかという点です。今は病棟懇談等で家族の思いを家族会として伝えることができており、病院も意見を尊重してくだされ、いい関係を維持していると感

ます。しかしながら国立病院機構でも不適切な支援や虐待と認定される事案が報道され我が娘の施設や職員の心配はやみません。また、人口減少で福祉人材の確保も厳しくなっており、人材不足による職員の支援の低下が起るのではないかと不安を感じています。

今回の全国大会では、親の高齢化や死去等により家族会の構成員が減少していること、また



活動の必要性を感じないとの理由から若い親の参画が得られてない現状があることに對して、保護者会をNPO法人化して活動することが方策の一つであると学びました。岡山県では、旭川荘の児童院に「ゆずり葉の会」があり後見業務を行っています。今できることは、守る会の活動の歴史を若い親に伝え、NPO法人化について考えていくことかもしれません。

旭川児童院 石原 都

第4分科会の母親部会は、約50名の参加で8グループに分かれて胸の内を語りました。私はGグループ5人で部会の進行役をさせてもらいました、全員のお子さんが30代で同年代のお母さ

んの集まりでした。子供とそして自分の将来について考えなければいけない時がきている、それぞれに子どもの為の動きが見られました。全国から来られた皆さんの声を聴き、同じ悩みに共感することは、これからの活動の原動力になると実感しました。

南岡山医療センター 定家 久子

2日間の日程で末光茂先生の基調講演を聞くことができ、母親分科会に参加しました。

会場におられたお母さん達には我が子の将来のことが不安でありますが大先輩の運動の歴史で現在があり生かされていることを思い、もつと守る会の会員が声掛けをして、我が子のために存続していかなければいけない、会なのだと思えました。

参加できました事、ほんとうにありがとうございます。

南岡山医療センター 西口 京子

33年ぶりに北海道に行きました。母親部会と「60年の学びと伝えたいこと」と題して末光先生の講演を受けました。

重症児の母親3人、①山崎祥子・勲さんご夫

妻は我が子が亡くなった後も重症児施設(土佐希望の家)を設立されました。②北浦雅子さんは100歳をこえても全国重症児(者)を守る会の会長を務められました。

佐藤恵美子さんは公的成年後見人制度を全国初立ち上げられました。

「娘なおみに叱られないように」と言われていました。

昔は障害のある子を隠し、施設では職員と一緒ににお風呂に入っていた時代があると聞いています。現在の生活があるのも守る会の今までの活動があるからです。守る会の歩みに感謝して母親としてこれからも我が子と歩みたいと思います。ありがとうございます。

在宅 奥津直杏

在宅部会「希望につなぐ移行期支援」住み慣れた地域で暮らす」に参加しました。こども家庭庁からは自治体支援体制や人材育成事



業、厚生労働省からは障害福祉サービスや成人移行期支援・医療的ケア者の調査内容、文部科学省からは切れ目のない支援体制と学校での医療的ケア整備が紹介されました。北海道医療的ケア児等支援センター長の土島医師からは在宅医療や移行期医療の取り組みを伺い、地域で安心して暮らす支援の重要性を実感しました。今後ともこうした取り組みが広がることを期待します。

児童院 井口久美

全国重症心身障害児(者)を守る会全国大会では、生涯支援施策について最新情報を聞き、県の施設の様子を知り、これからの重症児施設の在り方や豊かな生き方について考えることができました。さらなる施策の充実を働きかけ続けなければと思いました。

親睦会ではアイヌの若者の踊りを観ました。今どきの若者が伝統を受け継ぎ守ろうとしている姿が印象的でした。

継続し続けることの困難さや大切さを考えさせられる大会でした。

第35回全国重症心身障害児(者)を守る中国ブロック大会

旭川児童院 池田里志

今回、広島で開催されたブロック大会へは、ブロック役員として準備段階から参加させていただきました。会員数は岡山と広島ではほぼ同じですが、岡山とは異なり県内全域にある複数の中規模施設や全域におられる在宅会員の方で構成されており、その中から役員が選出されています。広域から集まるのが難しいこともあり、複数回の打ち合わせはすべてオンラインで実施されました。広島支部結成50周年の年という事もあり、本部からは安部井会長、青木理事、山本事務総括の3名をお招きしての開催となりました。

講演は末光茂先生に是非お願いしたいという事となり「昨年が続けてとなりますが…」とお願ひにあがったところ、「まだまだたくさん皆さんにお伝えしたい事がある」と快くお引き受けくださいました。講演翌日に東北で開催される学会への出席を予定されていましたが、学会にはオンラインで出席されることとし、「皆さんの顔をみながらお話したい」と懇親会へもご出席いただけました。懐かしい顔ぶれとのお話も楽しんでいただけました。翌日の学会へのオンライン出席のお手伝いを見せて頂きましたが、あらためて多岐にわたるご活躍を感じました。

旭川治療育医療センター顧問 中村 誉

全国重症心身障害児(者)を守る会中国ブロック大会に参加させていただきました。守る会顧問の末光茂先生の「重症児(者)医療福祉の60年」と題したご講演の中で、今日に至るまでの守る会の活動や、今後に向



けた願ひなどをお聞きすることができました。分科会では、重症児施設部会に参加し、広島文化学園大学の加地信幸先生による「重症児者のアダプテッドスポーツ」に関する実践をお聞きし、各地で様々な取組が積極的に行われていることに心を動かされました。また、守る会理事の青木健先生による中央情勢報告会では、「時代の風」や「時代の波」に乗りながら、「最も弱いものをひとりももれなく守る」のもと、「世代を超えて、語り合える人の輪を作る」ことの大切さを、再認識することもできました。

2日間の日程の中で、守る会の安部井聖子会長をはじめ、理事や事務局の方々と間近でお話しし、今後への熱い思いもいただきました。全体を通して、現在課題となつている「脱施設化」や「地域移行」といった視点での話題もあり、今後の施設の在り方等について、私自身が考えていく貴重な機会をいただいたことに感謝しています。今後も、守る会の方々だけでなく、行政も含め関係する方々皆で、心を二つにして進んでいけたらと、改めて思いました。

南岡山医療センター 宮本 隆

第1分科会、国立施設分科会に参加しました。賀茂精神医療センター佐々木指導室長には子どもたちの生活のあり方から院内行事、院外行事に至るまでの実状を話して頂きました山口宇部医療センター中谷指導室長からは、日中活動で子どもたちが長時間生活している施設内での環境で楽しく療育を受けられるようグループ(医師・看護師・児童指導員保育士)ハビリ、臨床工学士・支援学校)を組んで、いかに楽しくそ

の子にあった生活が送れるよう考えてくれている話でした。それぞれの医療センター(施設)で特徴のある療育をされていると感じました。

旭川児童院 西崎 亨

第2分科会の重症児施設部会に参加させていただきました。同分科会は旭川児童院からの出席者も多くの方が出席されておりました。分科会もコロナ禍や開催県の事情により、久しぶりの開催になりましたが、内容を少し紹介させていただきます。

『重症心身障害児者のアダプテッドスポーツ』という内容で講話を広島文化学園大学の人間健康学部スポーツ健康福祉学科 加地信之教授によるものでした。我々はアダプテッドスポーツと言われても直ぐにはどんなスポーツか理解できませんでした。ここで重度・重複障害児を対象とした11種目の『アダプテッドスポーツ』を紹介させていただきます。①スクーターボード運動、②風船リレー運動、③シッティングふわふわ風船バレーボール、④マットローラー運動⑤マットコロコロ運動、⑥ハンモック運動、⑦トランポリン運動、⑧プール運動、⑨スローベンチ椅子ラジオ体操、⑩スタンドアップパトルボード(サップ)運動、⑪オンライン運動(呼びかけ歌、楽器演奏、ラジオ体操等運動ですが、車椅子やストレッチャーを使わなくて、普段とは違う動きを楽しみながら行うことにより、心拍数や緊張の低下につながり、リラクゼーションや睡眠の質につながるなど、生活の質の向上につながる内容でした。感じたことは、日頃、リハの質や重要性についてはあまり知識がなく、関心を持つてこなかったように感じました。三篠会原の入本直行様による『ふれあいライフ原における療育活動』新たに療育部門を作り専任スタッフを配置して回数増加、療育の質の向上について取り組んでいる等の内容の発表でした。

在宅 宮木悦子

第3分科会(在宅)の「視線入力・トーキングアイトなどIT機器を使った日中活動」に参加させていただきました。特定非営利法人「よりSoy」理事長の枝折氏から事業所説明と日中活動にICTを取り入れた経緯や「その人らしく当たり前を当たり前に」との理念想いを伺いました。

次に、運転手さんとして業務にあたられている元技術の教師でICT担当の山下さんが、利用者さん一人ひとりの個性に合わせて作成されたコミュニケーションツールやたくさんのおもちゃの紹介がありました。人とお仕事の熱い想いが伝わってきました。

人材不足や後継者問題を課題にあげておられましたが、お二人のあたたい想いと充実した日中活動の様子は素晴らしかったです。

旭川児童院 石原 都
第4分科会(母親部会)で意見発表をさせていただきました。テーマは「つながり」この子の笑顔を誰になげよう」です。

この部会では「全員が何か言おう」を、毎回目標にしています。回数を重ねるごとに、母親ならではの色々な話の中から、新たな発見が出てきます。解決に時間が掛かるものや、解決出来ないものなど、焦らずに話すことで、何か糸口が見つかるかもしれない、話すことで母の気持ちも少しは楽になるかもしれない、そんな想いです。コロナ禍以前の姿になるかどうかはわかりませんが、焦らずに二歩ずつ、無理のないように歩みを進めて行くことだと思います。

旭川児童院 入木 正子
11月1日(土)〜2日(日)広島開催に150名程の参加者で広島支部の方々が頑張っておられるという印象でした。

記念講演の守る会顧問末光茂先生の「重症児(者)医療福祉の60年」というテーマで先人の方々のおかげで今の子ども達も安心して過ごしている事。重症児(者)についての理解世界の中で見ると不足している事。先生がいろいろな所に行つて講演をして賛同者を増やしておられる事などに感銘を受けて小さな活動でも継続していくことが大切だと思いました。

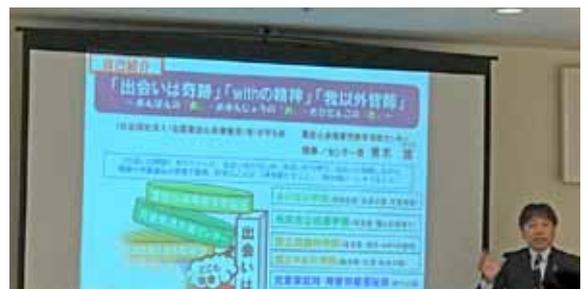
2日目は中央情勢報告で守る会会長安部井聖子様のお話が力強く亡き北浦会長の意思を受け継いで、政府の各省庁に向いて各検討会委員会に精力的に意見を述べておられる事。理事の青木建様の施設勤めや官僚の事務次官に向された経験のお話と会長安部井様との掛け合いのユーモアを交えたお話で本部でもいろいろな活動をされていることがよくわかりました。

部会の分科会では、各施設の創意工夫でIT機器を取り入れた活動報告がとても参考になりました。同じ思いの親家族の方と話しが出来て有意義な2日間でした。

旭川児童院 金光美知子
初日は末光先生の講演が聴けました。60年の先生の歴史の中で守る会が積み重ねた努力と今後の課題と継続の大事さを話されました。その後、各部会に分かれて日中活動の実践発表などがありました。

2日目は中央情勢報告で青木建氏と会長の安部井聖子さんの話でした。会長のさつくばらんな話には人柄や守る会のリーダーとしての魅力を感じました。

南岡山医療センター 國藤勝江
今回は新幹線で各々現地集合でしたので、路面電車



が駅の中まで入り大きく変わった広島駅にわくわくした気分で行きました。広島駅はとても広く、きよらきよらと北から南へと歩いていると広島守る会の方がいたるところに案内板を持つて立ってくださり、親切な対応でありがたかったです。

会場に行くといろいろな人に会えて、いろんな話が聴けて、会話も出来嬉しかったです。これも子どもが作ってくれた縁のおかげだと感謝しています。

旭川児童院 渡辺くみ子
1日目は守る会顧問末光茂先生の守る会の功績と今後の願いの講演を聴き、分科会(重症児施設)では、重症児者のアダプテッド(車椅子から降りた)スポーツと施設(原、広島県)における療育活動の取り組みが話された。

2日目は守る会理事 青木 建氏の講演でした。障害児(者)施策の最近の動向(日本)で起きていること。守る会の役割と展望について話され、糸賀一雄先生の「この子ら(世の光)」を心にざざみ私たちは努力しなければいけません。1にするのは現場(親)、1を10にするのは研究者10を50にするのは企業、50を100にするのは行政では、0の役割はなにか?

時代の風、波に乗るためには学び語りつなぐ必要があるとあり、全国重症心身障害児(者)を守る会(親の会(運動体)であり、社会福祉法人全国重症心身障害児(者)を守る会)は法人(事業体)である。お互いが車の車輪のごとく手を取り合い親の願いを法人が訴え要望していきましようと話されました。その後守る会の安部井聖子会長との掛け合いで今後の守る会をより一層頑張るために私達(親)に、パワーを頂きました。

令和7年度岡山県重症心身障害児(者)を守る会の主な活動内容

月日	活動内容	開催場所	参加者
5月23日	吉備中央町自立支援協議会出席	吉備中央町	1名
5月29日	旭川児童院通園センター総会出席	旭川児童院	1名
6月4日	特別支援教育振興会出席	岡山市	1名
6月11日	国立病院機構中国四国グループ訪問	東広島市	3名
6月21日	第36回総会(佐藤元会長記念講演)	旭川児童院	55名
7月5日	岡山県母親部会研修会(佐藤元会長による守る会の歴史の理解と成年後見制度について)	ピュアリティーまきび	15名
8月7日	岡山県との懇談会(ZOOM)	web	6名
8月17日	防災デイキャンプ実施 詳細はこちらから→ 	旭川児童院	講師4名 97名
9月16日	『あすにはばたく集い』に参加(ZOOM)	岡山県健康の森 学園支援学校	1名
9月21日～22日	第62回全国大会	札幌市	7名
11月1日～2日	第35回中国ブロック大会	広島市	14名
各種会議	全国支部長会議 新支部長研修会、全国専門部会長会議 中国ブロック役員会 岡山県守る会理事会(8回)、自立支援協議会(吉備中央町 瀬戸内市) 岡山県総合福祉大会		
年間活動	在宅児者へ誕生日カードとプレゼントをお届け、リーフレットの配布 ホームページ更新、『愛のとしび』新年号発行、在宅版は随時発行		

年間行事予定

適宜	岡山県重症心身障害児(者)を守る会 総会	年1回の全員参加行事です。岡山県守る会の運営についての意見をお待ちしています。また、記念講演も予定されています。
適宜	全国重症心身障害児(者)を守る会 全国大会	福祉行政など国の動き、考えが身近に感じられます。分科会、記念講演、全体会など予定されています。
適宜	在宅保護者研修会	重症心身障害児(者)のケアを行ううえで、参考となるテーマについての研修を行い、制度や介助方法の理解を深める研修会です。
適宜	全国重症心身障害児(者)を守る会中国ブロック大会	中国ブロックの会員さん方と、身近な話題についての交流や意見交換ができます。課題の共有ができるかもしれません。地域ごとの福祉制度の実情の理解も進みます。
月刊	全国重症心身障害児(者)を守る会発行 『両親の集い』	現在の福祉行政の動向や全国各支部の動き、また、守る会の歴史など、重症児(者)の親にとっての指導誌です。
適宜	誕生日プレゼント・成人のお祝い	在宅の方へのメッセージとささやかなプレゼントをお贈りしています。喜びの気持ちを分かち合います。
適宜	在宅保護者との懇談会など	在宅保護者の方々と情報交換などを行っています。
適宜	行政や施設・病院機構との懇談会	福祉制度の現状などについて行政と意見交換を行ったり、利用している施設・病院機構と懇談会を開催し、意見交換を行います。
1月	愛のとしび発行	年1回 新年の挨拶 昨年の報告 在宅版は随時

